

<2017 年度修学旅行研究会開催報告>

日 時:2017 年 11 月 14 日(火)

場 所:名古屋都市センター会議室

発表校:名古屋市立森孝中学校

テーマ:「文化や歴史から生き方を学ぶ修学旅行」ー 由良町・東大阪での活動を通して ー

【修学旅行のねらい】

本校の努力点「生き生きと主体的に活動しよう」と、3年生の学年目標「温かな雰囲気でありながら、集団としての規律があり、規則正しい集団生活ができる生徒の育成」を踏まえて次の行動目標を示した。

- ① 一人一人が時間やルールを守り、責任をもって自主的に行動できるようにする。
- ② 集団行動を通して、思いやりの心を持ち、友達との関わりを考えながら、協力することの大切さを学ぶ。
- ③ 由良町での活動を通して、地域の特色ある文化や風土を学ぶ。
- ④ 東大阪での工場現場体験を通して、モノづくりの原点や仕事に対する思いを学ぶ。

【修学旅行スローガン】

樂(らん)一人と人が関わり合う Runー自ら行動する Learnー地域の文化や歴史を学ぶ

【事前学習】

東大阪モノづくりの現場体験に向けて、8つの会社の中から希望を取り、グループ分けを行った。グループごとに集まり、それぞれの会社について仕事の内容、製品などを調べた上で、当日の質問を考えた。

【当日の活動】

(1)由良町での体験・・・ほんまもん体験<アジの開きづくり体験と漁船体験>

その日の朝に取れたアジを1人2匹さばいた。普段魚に触れる機会もないため、苦戦する生徒が多かったが、楽しく取り組んだ。さばいたアジには自分の名前のタグをつけ、干物にしてもらい、後日生徒の手に届くようにした。

漁船体験はライフジャケットを着用して漁船に12人ずつ乗船し、沖に出て、真っ白な石灰岩でできた岸壁の間近まで、船長さんのガイダンスを聞きながら20～30分クルージング体験を楽しんだ。

(2)東大阪モノづくりの現場体験

まず、大阪府立労働センターで、モノづくり観光推進協会の方から話を聞いた。「モノづくりを通じて人のために働くということがものや他人に対する感謝の心を育み、信頼、実直という日本人像につながった。働くということは、はた(周り)を楽にするという意味」など、東大阪の町工場の現状や思いについての話を伺った。

<体験場所> 彫忠、昭和電機、シーズクリエイト、野田金属工業、日本化線、アオキ、シーホネンス、吉持製作所

【事後活動】

事後の活動では、事前学習で調べたことと、施設見学や体験を通して分かったことをレポートにまとめ、完成したレポートを掲示し、学年で掲示したレポートを見る時間を設けた。

【修学旅行の日程】

- 1日目 学校 → 黒壁スクエア(昼食) → 白崎海洋公園(入村式) → 由良町民宿(夕食・宿泊)
- 2日目 由良町民宿(体験活動) → 稲むらの火の館(震災・津波学習) → USJ → ホテル
- 3日目 ホテル → 東大阪モノづくりの現場体験(8か所に分かれて体験学習) → 学校

【成果と課題、参加者からの意見】

- 地域の特色ある文化や風土を積極的に学ぶことができた。
- 東大阪モノづくりの現場体験では、生きがいや仕事に対するやりがいについて学ぶことができた。2年時の職業体験学習と関連付けて、職業選択に対しての意識が高まっている様子が見られた。
- 行程上移動時間が長くなり、1日目の活動内容に制限ができてしまった。
- 3年間を通したキャリア教育を積み重ね、将来的に生きていく力の育成を。振り返り活動も重視。

平成30年度は、弥富市立十四山中学校の事例発表を予定している。

教諭 鬼頭 聡

『文化や歴史から生き方を学ぶ修学旅行』

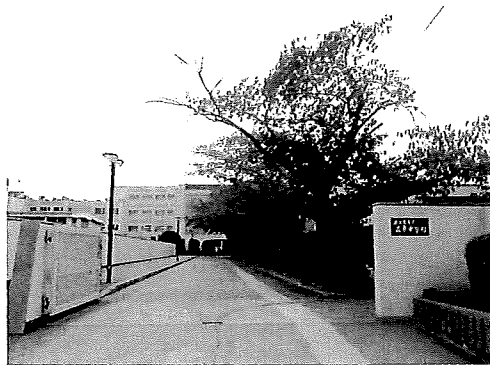
～由良町・大阪での活動を通して～

●学校紹介

本校は、もとは大森中学校分校であったが、昭和五六（1981）年四月に大森中学校より独立開校した。開校当時の学校所在地と中学校区全域の住所が「大字森孝新田」であったことから、その「森孝」を取って名付けられた。本年度開校37年目となる。本校の校章は、「森」の字をデザイン化して、「森の木々のようにみんなが手を結ぶ」「大樹のように健やかに成長する」「外に向かって若い力が躍動する」という様子を象徴している。また、スクールカラーである緑色には、自然の緑が比較的多く残されている学区としての誇りが込められている。



【校章】



学校外観

School Data

【創立年】 昭和56（1981）年
 【教育目標】
 真理と正義を希求し、健康な心身と自主性を重んじ、人間性あふれた社会人への育成をめざす
 ○ 真実を見つめ、深く考える人
 ○ たくましい体をつくり、強い精神力のある人
 ○ 協力を大切にし、思いやりのある人
 ○ 勤労を重んじ、自律的精神のある人
 【全校生徒数】 322名（12学級 内特別支援2学級）
 【教職員数】 31名

実施要項

- 行き先と時期 和歌山県・大阪府 平成28(2016)年5月24日～5月26日
- 実施学年と引率者数 第3学年4クラス 146名 引率者数9名
- 日程概要

【1日目】 5月24日(火)
学校 → 黒壁スクエア(昼食) → 白崎海洋公園(入村式) → 由良町民宿(夕食・宿泊)
【2日目】 5月25日(水)
由良町民宿(体験活動) → 稲むらの火の館(震災・津波学習) → USJ → ホテル
【3日目】 5月26日(木)
ホテル → 東大阪モノづくりの現場体験(8か所に分かれて体験学習) → 学校

1 はじめに

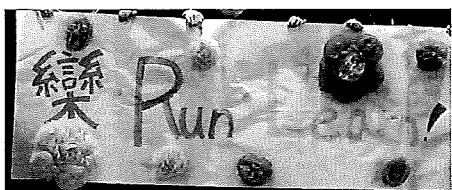
本校では、総合的な学習の時間において、系統的に生き方学習に取り組んでいる。第一学年では、「身近な文化や伝統から生き方を学ぶ」と題して校外学習や市内分散学習を行い、第二学年では、「職業を学び、生き方を考える」と題して進路講演会や職業体験学習を行っている。また、第三学年では、「職業について理解を深め、卒業後の生き方を考える」と題して修学旅行や進路学習を行っている。

2 修学旅行のねらい

- 本校の努力点である「生き生きと主体的に活動しよう」と、三年生の学年目標である「温かな雰囲気でありながら、集団としての規律があり、規則正しい集団生活ができる生徒の育成」を踏まえて、以下の行動目標を示した。
- ① 一人一人が時間やルールを守り、責任をもって自主的に行動できるようにする。
 - ② 集団行動を通して、思いやりの心をもち、友達との関わりを考えながら、協力することの大切さを学ぶ。
 - ③ 由良町での活動を通して、地域の特徴ある文化や風土を学ぶ。
 - ④ 東大阪での工場現場体験を通して、モノづくりの原点や仕事に対する思いを学ぶ。
- この行動目標を基に、学級総務会が中心となり、修学旅行スローガンを作成した。

●重点を置いた活動

人と触れ合うことで、その地域の文化や歴史を学ぶ活動



スローガンの発表

3 事前学習

【修学旅行スローガン】
 樂(らん) 人と人が関わり合う
 Run 自ら行動する
 Learn 地域の文化や歴史を学ぶ

東大阪モノづくりの現場体験に向けて、八つの会社の中から希望を取り、グループ分けを行った。グループごとに集まり、それぞれの会社についてどのような仕事を行っているか、どんなものを作っているのかなどを調べた上で、当日質問したいことを考えた。

4 当日の活動

由良町での体験 ほんまもん体験



入村式で生徒が挨拶している様子

アジの開きづくり体験と漁船体験を行った。二クラスずつに分かれて、二つの体験を交代で行った。アジの開きづくりは、由良町の方の説明を受けて、その日の朝に取れたアジを一人二匹

ずつさばいた。普段魚に触れる機会もなかなかないため、苦戦する生徒が多かったが、楽しそうな様子で取り組んでいた。さばいたアジには、自分の名前やタグをつけておき、干物にしてもらった状態で後日学校に届けていただき、生徒の元に届くようにした。

漁船体験は、イフジャケットを着用して漁船に実際に乗り、沖に出て、真っ白な石灰岩でできた岸壁の間近まで連れていってもらいクルージング体験であった。一隻に12人乗船し、船長さんのガイダンスを聞きながら20～30分のクルージングを楽しんだ。

《生徒の感想》
 ・2日目の漁船体験は、思った以上にスピードが速かったので、口を開けていると自然に乾燥してきました。アジの開きづくりはなかなか難しく、不器用なので、二つに切れてしまいました。家に届いてから食べたのですが、いい塩加減でおいしかったです。



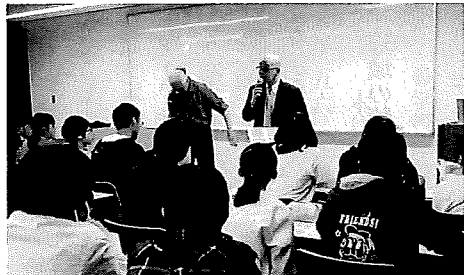
漁船体験の様子



アジをさばく様子

5 東大阪モノづくりの現場体験

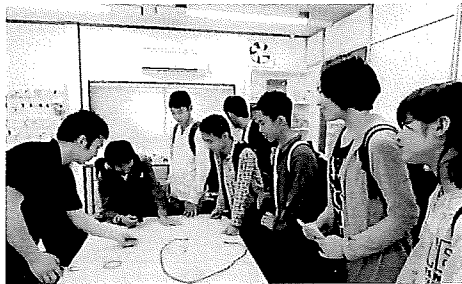
まず、大阪府立労働センターで、モノづくり観光推進協会の方から話を聞いた。「モノづくりを通じて人のために働くということ、がものや他人に対する感謝の心を育み、信頼、実直という日本人像につながったのだろう。働くということ、は、はた（周り）を楽にするという意味」など、東大阪の町工場の現状や思いについての話を伺った。



観光推進協会の方の話

だんじりや神社のさい銭箱を製作する会社である。匠の技を使い、地車を制作する伝統工芸士に体験をさせてもらう。道具の使い方はもとより、地域活性化を目指してお祭り道具の製作をしているなど、仕事をすることで生きがいについて学んだ。ミニだんじり山車を製作させていただきながら、地域とともに歩んできた社歴を田中社長自らにお話しいただいた。

昭和電機 電動送風機という機械を取り扱う会社である。まず講話を聞いた。電動送風機について、普段なじみのない機械だと思っていた生徒たちは、ボーリング場にもそれが使われて



カラーワイヤーの作品の説明

いることを知り、興味をもって学ぶことができた。講話終了後は、二班に分かれて社内見学を行った。送風機の製作工程が間近で見られ、熱心にメモを取る生徒の姿が見られた。シースクリエイト

商業印刷を中心とした、出版・コミュニケーションツールなどの総合印刷やフリーペーパーなどの企画製作を手掛ける会社である。高速回転機が七台と西日本最大級の生産力を誇っており、実際に印刷物ができる工程を見学させていただいた。

野田金属工業

金属加工の会社で大きなものから細かいものまで様々な加工品を作る会社である。様々な機械が置かれ、中には国内に数台しかない機会も導入されていて、もっと良いものを作ろうという職人さんたちの意識の高さがかげえた。大きな機械を扱っているということもあり、危険を伴う仕事でもあるので安全管理は徹底されており、緊張感があった。働くことの楽しさ、厳しさなどいろいろなることを感じることができた。

日本化線

ワイヤーを製造して、様々な分野へ供給する会社である。工場で鉄鋼を延ばした線材（ロッド）から、鉄線を製造しているところや、オリジナル製品であるクラフト用の「カラーワイヤー」を製造しているところを見学させてもらった。その後、生

7 修学旅行を終えた生徒の感想

《生徒の感想》

・私は、今回の修学旅行で多くのことを学ぶことができました。その一つがその土地の文化や伝統についてです。民宿ではその土地で作られた食べ物、漁船ではその場所ならではの風景、稲むら火の館では歴史に残る出来事、工場では長年守られてきた技術などです。今日まで守られ、伝えられてきたということから、私たちもこれから多くの人たちに伝えていく義務があるのではないかと思います。

・私は修学旅行の前まで、一人で行動できなくて、いつも友達といて何をすることも誰かと一緒に行動していました。でも、スローガンの「樂 Run Learn」のRunが、自ら行動するという意味だったので、私は今までみたい誰かと行動するのではなく、自分一人で行動しようという思いをもって修学旅行に行きました。

・民宿でご飯を食べ終わった後、みんなでお皿を運んだ後にしゃべっていて、そういうしゃべってほしいし、行くなら誰かといっしょに行きたい、とも思いました。そのとき、私はスローガンを思い出しました。そして、誰も誘わずに、一人で皿洗いを手伝いにきました。やっと、樂 Run Learn、のRunを達成することができたと思いました。

8 成果と課題

・「私は、今回の修学旅行で多くのことを学ぶことができました。その一つがその土地の文化や伝統についてです」と感想にもあるように、地域の特色ある文化や風土を積極的に学ぶことができました。

・東大阪モノづくりの現場体験では、生きがいや仕事に対するやりがいについての質問をしていた。二年時の職業体験学習と関連付けて、職業選択に対する意識が高まっている様子が見られた。

・行程上移動時間が長くなり、一日目の活動内容に制限ができてしまった。特に、民宿の方々と触れ合う時間がずいぶん短いものとなっていましたので、この点については、行程の見直しが必要であった。

9 終わりに

修学旅行後は、教材を活用して、自分の長所や短所、興味のあることや将来やりたいことなど、自分を見つめ直すことでそれぞれの進路を考えさせる活動を行った。特に、将来職業に就いて社会人となるために、中学校を卒業した後、どのように進んでいくかについて、じっくり考えさせた。

これら三年間の学習を通して生き方について学んだ生徒は、自分の進路について悩まながらも、立派に卒業をしいった。

6 事後学習

事後の活動では、事前学習で調べたことと、施設見学や体験を通して分かったことをレポートにまとめさせた。そして完成したレポートを掲示し、学年で掲示したレポートを見る時間を設けた。生徒のレポートは、主に工場見学に関するものが多かった。